

日本べんとう振興協会、「第1回通常総会」を開催5/24

「過当競争からは適正な利益は生まれない」安田会長

日本べんとう振興協会(本部・東京、安田定明会長)は5月24日、郡内千代田区の憲政記念館で第1回通常総会と懇談会を開いた。公益社団法人に移行してから初となる総会では、平成23年度の事業・会計についての報告を確認したほか、平成24年度の事業計画・収支予算に関して慎重に審議。今年度、「食品加工衛生検査研修」を「食品微生物検査技士3級」という資格認定に格上げして、応募者の拡大とレベルアップを図ることなどについて決議した。続く懇談会も正会員や賛助会員をはじめ関係各社が出席、国会議員も多数駆け付けて大いに盛り上がった。

冒頭あいさつした安田会長は、会員各社の協会に対する協力・支援に謝辞を述べたうえで、昨年発生した東日本大震災を振り返り、「大



震災以降、コンビニの業態が重要な国家的インフラとして多くの国民に認知されたことは、私達にとって不幸中の幸いであつたとも言えるのではないかと指摘。次いでデフレの問題について触れ、「我々の業界でも、適正な利益の確保は極めて大事。ただ安ければよいということではなく、リーズナブルな価格を保持しなければならぬ。過当競争からは、適正な利益は生まれない。『適正な収益のない仕事はしない』という強い決意と姿勢が必要だ」と強調した。

さらに今夏懸念されている電力不足について、「オイルショックの時には、食品製造業は病院などと同様に電力の制限措置から適用除外されたと記憶している。今年もその例に倣って、当業界が電力の制限措置の適用除外になるよう、協会として活動していきたい」と話した。

来賓として出席した農林水産省の山口靖外食産業室長は、「日本べんとう振興協会は、我が国の中食産業の要。フードチェーンの発展に一層の貢献を」と期待。森本哲生農林水産大臣政務官は、食料需給率がこれからの日本にとって重要なテーマであることを訴え、「皆さんの戦略を伝授して欲しい」と願った。